

## 文法概説

～してもいいですか？

ウルドゥー語では、相手の許可を求める表現に、**saknā** という補助動詞を用います。この動詞は、「～できる」という可能表現の際にも用いられます。以下の例に示すとおり、必ず別の動詞を伴います。日本語では「私はできます。」という文が用いられますが、ウルドゥー語では、「何が」できるかを必ず表さなければなりません。またその際の動詞は、語幹のみとなります。

例)

(ham urdū par<sup>h</sup> saktē hain)- ہم اردو پڑھ سکتے ہیں۔

私たちは、ウルドゥー語を読めます。

(maiṅ āp ke liye kyā kar saktī hūṅ)- میں آپ کے لیے کیا کر سکتی ہوں۔

何をいたしましょうか？

### 動詞の命令形

ウルドゥー語の命令形は、相手との関係によってその表現が変わります。

1. 初対面の場合、相手との精神的距離が比較的ある場合：相手を**آپ (āp)**で呼ぶ場合

以下に示す例外的な変化をする動詞を除き、ほぼすべての動詞に共通の変化は、動詞語幹に **یے (iyē)** という語尾を付け加えることにより、つくることができます。

例外の変化をする動詞は以下の7つのみです。これらの変化は覚える必要があります。

کرنا	karnā (する)	کریجیے	krijyē
پینا	pīnā (飲む)	پیجیے	pījyē
سینا	sīnā (縫う)	سیجیے	sījyē
لینا	lēnā (とる、もらう)	لیجیے	lijyē
دینا	dēnā (あげる、与える)	دیجیے	dījyē
ہونا	hōnā (～になる)	ہوجیے	hōjyē

2. 相手が、精神的に非常に近い関係の場合：相手を**تم (tum)**で呼ぶ関係の場合

動詞語幹に **ō** という語尾を付け加えることにより、規則的につくることができます。ただし、以下

に示す2つの動詞のみは、例外的な変化をします。

لینا      lēnā                  ٻ                  lō

دینا      dēnā                  ڊ                  dō

この表現は、初対面の相手に使ったり、社会的な階層が自分よりも上の人に使うと、相手が不快に感じる人が多いので気をつけなければなりません。気の置けない友人どおしや、夫婦など、近い関係にのみ使うことができます。

### 依頼形

「～してくれませんか」という相手に依頼をする場合の表現は、上記の命令形の表現を用います。上記1. 相手をآپ (āp) で呼ぶ場合の命令形の後に、常に変化しない گ (gā) を加えることにより、依頼形となります。

以下の例文を見てゆきましょう。

آپ یہ کھائیے گا۔ (āp ye khāiyē gā.)

これを食べてくれませんか。

مہربانی کر کے کل دوبارہ یہاں آئیے گا۔ (mihrbānī kar ke kal dōbārah yahān āiyē gā.)

すみませんが、明日もう一度ここへ来てくれませんか。

اور لیجیے گا۔ (aur lijiyē gā.)

もっと、どうぞ。

### お座りになる

ウルドゥー語の丁寧表現の一例です。一般的には、「座る」という動詞は、bait<sup>h</sup>nā を用いますが、その代わりに tašrīf rak<sup>h</sup>nā という動詞が用いられています。

### (参考)

ウルドゥー語では、相手に対して敬意を表す際に、相手が1人であっても、複数扱いします。「あなた」(āp)が、常に複数扱いであるのは、このためです。なお、2人称単数形の代名詞には、tū や tum という形もあります。tū は、アッラーを指す場合や、社会的な地位や階層が、明らかに自分よりも落ちる場合にのみ用いられ、実際に耳にする機会はいほとんどありません。tum は、気の置けない友人どおしや、夫婦など、自分との関係が近い場合に用いられます。南アジアの人々は少し話をしていると、相手を āp ではなく tum で呼び始めますが、多くの場合それは、こちらを自分の友人だと考えるからです。

いけません。

禁止表現の1つです。以下の例文を見てみましょう。

(yahāṇ tambākū nōṣī manā` hai) یہاں تمباکو نوشی منع ہے

ここでは喫煙禁止です。

(kamrē ke andar jānā manā` hai) کمرے کے اندر جانا منع ہے

部屋の中に入ることは禁止です。

上記の例文でわかるように、manā` hai の直前には、名詞(相当)語が現れます。動詞の場合は、不定詞が「～すること」という意味で用いられています。